

ユニット名:東雲棟・茜棟

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」「介護は心」を共有し、日々ミーティングや毎月の職員会議で再確認している。施設目標に沿った心に寄り添うケアを実践に繋げるように努力している。	法人理念の「共に歩む」、施設目標の「介護は心」を事務所内に掲示して共有と実践に繋げている。そうした中、月1回の会議の中で日々のケアが自分の都合で行われていないかを振り返り、利用者の思いに沿ったケアに繋げる様に取り組んでいる。また、日々の支援の中で気付いた事は、管理者が職員個々に指導し、徹底を図っている。家族には、利用契約時に理念に沿った支援について話をしている。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍での厳しい制限が少しずつ緩和され、ボランティアの方・訪問理美容・介護相談専門員の方の来訪や近所の花屋などへ買い物に出かける等している。	開設以来区費、社協会費、区の敬老会費を納めて、地域の一人として活動している。コロナ前の様な活動には戻っていないが、今年は地区の秋祭りの際に育成会の「花笠踊り」の来訪が予定されている。また、併設施設「湯けむり」で毎月開催している認知症サポーター養成講座」に管理者が講師として参加し、地域の皆さんの介護に関する相談に応じている。更に、中学生、高校生数名の職場体験での来訪も再開し、傾聴、料理の手伝い、入浴介助等を通じて利用者とのふれあいの時を過ごしている。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症サポーター養成講座」研修会等を開催し理解を拡げる活動をしている。また、ご相談がある時には、お話を伺い資料等を渡して協力できるように努めている。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面開催であったが、社会状況と施設現状をみながら対面開催を実施。基本情報として日々の活動やサービス状況を報告。頂戴した意見・アドバイスは真摯に受け止め、より良いサービスに向けて業務改善等に反映している。	コロナ蔓延中は書面での開催が続いていたが、現在は、3ヶ月に1回下浜区区长、民生児童委員、市介護相談員2名、調訪広域連合、家族代表、管理者が出席し、対面で運営推進会議を開催している。会議では、現状報告や年間計画の報告、各委員からの質問、意見交換等を行ってサービスの向上に繋げている。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営・サービス状況は定期的な会議、書面等で報告している。日々変化する介護保険等の最新情報はメール配信にて常に共有している。又、市主催の連絡協議会等に参加し情報共有を図っている。	調訪広域連合介護保険課とは運営推進会議を通して連携を深めると共に様々な事柄について相談している。また、年3回開催される岡谷市介護福祉課主催の事業所連絡会にも参加している。市介護福祉課には事故ヒヤリハット報告等を速やかに行って連携を取っている。市の介護相談員2名が月に2回来訪し、利用者約1時間交流すると共に気づいて事項を連絡ノートに記載の上、施設に提出いただいており、ケアの参考にしてはいる。介護認定更新調査は、調査員がホームに来訪し管理者が対応している。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束チェックや研修会を行い、常に職員同士でケア等の情報共有を図っている。現行、防犯上玄関は施錠しているが、要望があれば開けるように努め、ホール窓や希望するご利用者の居室窓は解放し、自由にベランダへ出られるように配慮している。	法人の方針として拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関は安全確保の為施錠されている。入所間もない時には押通し扉のある方も居られるが日々生活を進める中で現在は全利用者安定している。転倒危険のある三分の一の利用者には家族と相談の上、人感センサーを使用している。年2回の身体拘束に対する施設内研修に合わせて、毎月の会議の中で身体拘束廃止委員会を開き、拘束に対する意識を高め、日々の支援に取り組んでいる。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や「虐待防止チェックリスト」を通じて自身のケアの振り返り及び「不適切なケア」を発見・早期改善に努めている。常に尊重する気持ちを持って接し、言葉遣いやケアが適切であるか確認しあっているが、一部の職員に不適切な言葉の対応があり反復学習が必要である。	

己 自部外	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修会で学ぶ機会はあるが全職員の参加は難しく、又職場への落とし込みには至っていない。ご家族間のトラブルで悩まれている相談者には専門の方を紹介するなどの支援をしている。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は十分な説明を行い、疑問点や不安なことが無いお聞きしながら同意を得ている。介護報酬・料金等改定があった場合は文書と口頭にて説明し、ご理解をいただくと共に同意書を頂いている。	
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りにて近況報告とご意見を頂戴したい旨等発信している。ご利用者との日々の生活の中の何気ない会話から思いを汲み取り、ご家族には来訪時等お声をかけをしたり、意見箱を設置するなど機会を設けている。頂戴したご意見等は全職員に周知し改善へと繋げている。	現管理者の赴任した令和4年度に当ホームに対する要望等を聞く為にご家族宛にアンケート用紙を配布した。半数以上の家族よりご意見を頂き、ケアプラン作成の参考にしている。また、運営推進会議にも代表として数名の家族に出席して頂き、意見を頂いている。ホームでの生活の様子は、毎月発行している写真入りの「風薫新聞」で知らせるとともに利用者個々の様子を担当職員と管理者による合作の便りを送付し、喜ばれている。また、毎月3枚写真を撮り、アルバムにして家族に届けている。コロナ前に行っていた家族会は中止が続いているが、今年は敬老会に家族の参加も予定している。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日常において報告・相談がしやすい環境作りに努めている。物事の変更時は全職員と話し合う場を設け実施している。管理者との個人面談にて出された意見や思いは内容に適切な対応をしている。	毎月、第3もしくは第4木曜日の日中、職員会議を開催している。会議では、各委員より「事故、ヒヤリハット」、「感染症関係」等の報告、行事の計画や報告、問題点の状況共有と話し合い及び法人からの連絡事項、意見交換、ユニット毎のカンファレンス等を行ってサービスの向上に繋げている。法人として目標管理制度があり年間目標を設定して、半年毎に自己評価を行い、管理者による個人面談が行われて評価とスキルアップに繋げている。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個別面談や日々の悩み・意見等を聞く機会を設けている。個人評価が直接全て給与等に反映されることはないが、やりがいを持った働きやすい環境作りに努め、職員の現状や意見等は常に上長へ報告している。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は月1回全職員対象で計画されている。法人内外研修も多く、職員一人ひとりが学べる機会が充実している。又、受けた研修を現場に落とし込むサポートを強化しており、施設全体がスキルアップすることを目的としている。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業者とは会議、勉強会等で交流、他事業所見学会を通じて相互の理解を深めあっている。法人外への研修会等の参加にも理解があり、施設独自として機会があることに参加して、サービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の気持ちを一番に考え、その方の声や思いに耳を傾け寄り添っている。希望しない事は勧める事なく声にならない思いも察知し、ご本人が安心する関係・環境作りを常に行っている。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の主たる訴えは何かい耳を傾け、どんな些細なことでも話していただけるよう丁寧な対応を心がけている。不安なことやご意見、ご意向をお聞きする中で良い関係を築けるに努めている。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面接の際、現サービスと今後必要とされるサービスがあることを伝えている。当施設では提供できないサービスが必要に及んだ場合も他のサービス利用等も含めて柔軟な対応に努めている。	

己 自 部 外	項 目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者個々のペースで生活していただく中で、今までの習慣を尊重している。ご自身でできる事やお好きな事をしていただき、できない事を一緒にする支援に努めている。日々の生活の中で喜びや楽しみ、時には悲しみをも共感できる関係作りをしている。	
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者に対するご家族の思いを大切に近況を詳細に報告し、意向をお聞きすると共に協力を仰いでいる。但し、ご家族の思いやできる事の力量には個人差があり、柔軟な対応を心がけ良い関係作りを努めている。	
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の生活歴を把握し意向に沿った支援に努めている。コロナ禍で寸断されていた時間が少しずつ回復され、馴染みの美容室に出かけたり、行きつけのお店に買い物や外食する等の支援に努めている。	親戚等の面会があり歓談の時を楽しんでいる。また、誕生日に合わせ家族の送迎で外食を楽しんだり、洋服等の買い物に出掛けている。更に、家族と自宅に戻り昼食を楽しんでいる利用者もいる。ほとんどの利用者は、毎月来訪する美容師がカットしているが、馴染みの美容院に出かける利用者もいる。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性・性格等を把握し、お一人おひとりが穏やかに過ごせる環境作りを心がけている。又、レクリエーション・行事を通じ両様のご利用者が交流する機会を設け、良い関係を築けるよう支援している。	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設から積極的にご連絡することはしていない。サービスを終了したご家族が近況報告やその後の相談をされる方もおり、必要に応じて支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会あるごと、又は日々の会話の中からご本人の思いや希望を聞いている。聞き取りが困難な場合はご家族等から情報を得たり、その方の現状や表情等から思いや意向を汲み取り情報共有し、ご本人本位となるよう対応している。	自分の意思を伝える事が難しい利用者が数名いるが、家族から聞いた生活歴も参考にし、思い掛けに対する仕度や表情より希望を受け止める様に努めている。他の利用者には、飲み物、食べ物、洋服選び等二者択一の提案も含めて選択して頂き、意向に沿える様に取り組んでいる。日々の支援で気付いた事柄はタブレットに記録し、情報として共有すると共に申し送り確認し合っており、利用者の意向に沿える様な支援に繋げている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前情報の情報不足はご本人との会話やご家族からも折に触れ伺いながら、お一人おひとりが「私らしく」過ごせるような個別サービスに努めている。	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態や日々の変化を職員間で情報共有し記録に残している。個々の生活リズムを尊重する支援を心がけているが、時に職員本位に進めてしまうことがある。	
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきと職員間の情報交換は常に行っている。ご本人・家族・職員、時に主治医・看護師等を交えて話し合い、介護計画の検討・見直しを繰り返している、現状に即した介護計画を作成している。	職員は1~3名の利用者を担当し、居室の管理及び毎月利用者の様子を纏めて状況把握に努めている。介護モニタリングを3ヶ月に1回行っている。ケアプランは担当者会議で意見を出し合い、面会時等に聞いた家族の希望を加味してケアマネジャーが作成している。入所時は暫定で1~3ヶ月の暫定プランを作成し、様子を見て6ヶ月のプラン作成に繋げている。また、状態に変化が見られる場合には随時、見直しを行い利用者個々に合った支援に繋げている。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に身体状況、ご本人の言葉や様子を記入し職員間で情報共有している。記録から得られる情報を個々に適したケアの実践及び見直しに活かしている。但し、ケース記録入力に対してご利用者の記録量の偏りや職員の個人差があり今後の課題である。	
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が付き添えない時には、受診の付き添い及び通院介助支援をしている。又、身体状況の変化で当施設生活が困難になった場合においても、主治医・看護師・他事業所間との協議により、できる限りの支援を講じて柔軟な対応に努めている。	

己 自部外	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍での制限が少しずつ緩和され、社会状況を鑑みながらボランティア訪問等を再開している。また、個々の意向を思いの実現とすべく、馴染みのお店に外食や買い物外出等を行っている。	
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は希望をお聞きしている。ご家族対応受診の方の主治医には毎回情報提供書を渡す等、すべての主治医と連携を密に取っている。主治医変更希望があった場合には、双方の連絡役となり誠意をもって支援している。	利用契約時に希望をお聞きしホームとしての取り組みについて説明している。殆どの利用者がかかりつけ医の往診を1ヶ月～3ヶ月に1回受けており、若干名が家族の送迎で受診している。各主治医には毎回情報提供書を密に取っている。また、非常勤看護師が1名在籍しており、利用者の健康管理に当たっている。歯科医師と歯科衛生士が週に1回来訪し、口腔ケアを行っている。
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を配置し対応している。又、かかりつけ医によっては訪問看護があり常に相談できる体制になっている。異常発生時は主治医の指示の下、適切な受診及び治療となるよう早期に医療へ繋げている。	
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、詳細な情報提供書を渡している。常にご利用者の状態を把握し早期退院に向け病院関係者と密に情報交換をしている。又、日々良い関係作りを努めている。	
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、最初の説明を行い、その後重度化・終末期を見極めるタイミングで、ご家族・主治医・看護師・介護職員等で話し合う機会を設けている。ご本人・ご家族のご意向を確認し、その時の当該施設の現状を説明の上、ご本人・ご家族にとつて最良な方法を支援している。	重度化、終末期に対する指針が有り、利用契約時に説明して同意を頂いている。入浴や食事を取る事が難しい状況になり終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上で、医師の指示の下、終末期に向けたケアプランを作成して、改めて看取り同意書にサインを頂き、全職員気持ちを一つにし医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に1名の看取りを行った。家族には最期の時を共に過ごして頂いている。また、終末対応についてはカンファレンスを開きホーム内の気持ちを一つにして心の籠った看取り支援に繋げている。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に研修を行っている。又、実際に起きた事故の対応確認や計画作成時に急変や事故が予測される場合は、全体会議等で話し合い勉強している。	
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月施設内ミニ防災訓練を行い防災意識を高めている。6月・11月隣接事業所と共に総合防災訓練を実施。5月法人一斉「災害時情報伝達訓練」9月「地震想定訓練」を行い全職員が自分の身に置き換えて実践できるように努めている。又、定期的に災害対策マニュアルを確認している（BCPマニュアル含）。	防災への意識を常に持ち緊急時に備えた各種訓練を行っている。毎月、施設内のミニ防災訓練を行っている。5月は家族にも案内を出し、地震体験車で地震体験を行った。6月は隣接事業所と合同で総合防災訓練、8月には防災ダイヤルを利用した訓練を実施した。9月は大雨、地震想定避難訓練を行い利用者がケガをした時の対応及び職員の動き方の確認を行っている。合わせてAEDを使用するの発生訓練及び年に2回、緊急連絡網の確認訓練を行って防災への意識を高めている。また、「お米」「水」「レトルト食品」「缶詰」等を3日分備蓄している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を常に持ち基本は名字でお呼びしている。ご本人で行う事が困難な場合はさりげないケアを心がけている。又、慎重な内容の話をする時は必ず居室で行うよう配慮している。	人生の先輩に対し尊敬の念を持ち親しき中にも礼儀ありて馴れ合いにならない様に心掛け日々の支援に取り組んでいる。言葉使いには気配りをし、きつならない様に心掛けている。利用者は基本は苗字を「さん」付けで呼んでいるが、苗字が同じ場合は下の名前で呼ぶ事も有る。また、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けをする様に徹底している。管理者が会議の中でプライバシー保護、虐待防止について話をして意識を高め取り組んでいる。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意向を伺い、自己決定していただけるような声かけを意識している。言葉では十分に表現できない方は、日頃よりの表情の変化や体の動きから注意深く読み取るように心がけている。	

己 自 部 外	項 目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の施設において、一日の流れや生活リズムは大まかに決まっているが、その中でもお一人おひとりのペースで意向に沿った支援をしている。決して無理強いをしないように努めている。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者自ら身だしなみを意識していただけるようなお声かけを常に心にかけている。日々、好みの服をご自分で選んでいただき、化粧水や装飾品など今まで行ってきた物事を継続し、お洒落が楽しめるように支援している。	
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節を感じられる食材を取り入れるようにしている。ご利用者お一人おひとりのできる事を見極めて、メニュー考案・盛り付け・食器拭き等一緒に行っている。お誕生日にはその方のお好きな物での御祝膳にするなど行事食を大切にしている。	若干名の利用者が介助が必要な状況であるが、他1の利用者は自力で食事が出来る。献立は季節感も加味しながら野菜を多めに使い、肉と魚のバランスを考えて、職員が調理することにより出来立ての物を提供している。利用者の一人ひとりができる力に合わせて、盛り付け、洗い物、食器拭き等行っている。そうした中、誕生日には本人の希望に合わせて「トンカツ」「鯉」「お刺身」「天ぷら」等をユニット全員で味わい祝っている。また、「五平餅」「おはぎ」「ゼリー」「羊羹」等の手作りおやつも楽しんでいる。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひと月の体重の増減を基準に捉え、時には主治医に指示を仰ぎ、その方の現状に即した食形態(ミキサー食・トロミ食・キザミ食など)を提供している。栄養士不在だが「食事・栄養・脱水予防等」学習会を行い、変化が生じた場合は食生活全体を総合的に見直し改善するようにしている。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝・毎食後、お一人おひとりの状態に応じた口腔ケアをしている。歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジ等、必要時は個別に提供し、義歯を含めて洗浄消毒をしている。口腔内の状態によっては協力歯科医に繋げている。	
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの尿量・習慣や表情・様子等を把握し自尊心に配慮した声かけをしている。排せつケア用品の調整やコストダウンを意識して、ご本人の負担軽減に向けた自立支援を行っている。	排泄は自立と全介助が若干名、他の利用者は一部介助の状況。職員は利用者個々のパターンを把握しており、起床時、おやつ時、食事前後、就寝前に様子を見ながら早めにお誘いの声かけをしている。また、排泄状況はタブレット内の排泄表に記録し、情報の共有にめている。排便については3~4日無くコントロールを行っている方が数名いるが、医師の指示により対応している。また、「お茶」「ゼリー」「スポーツドリンク」等で1日1200~1500ccの水分摂取、水分摂取制限のある方は1日800cc程度の水分摂取に取り組み、排便促進に繋げている。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排せつパターンを見極め、その方の状況に応じた支援をしている。乳製品・繊維質の食べ物の提供や水分量の調整、運動等の対応にて自然排便につながるよう努めている。	

己 自部外	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手を借りながら入浴を決めてしまわずに、個々に合わせた支援をしている	曜日・時間帯は施設側で決めてしまっているのが現状である。但し、無理強いをすることはせず希望されない場合は、時間帯や曜日を変えて動いている。ご利用者個々の今までの習慣に合わせて、楽しんでいただけるように支援している。	全利用者何らかの介助が必要な状況である。基本的には週2回の入浴を行い、夏場は3回入浴する場合もある。入浴拒否の方が若干名いるが、日や時間帯を変えたりして、介助の人を変えたり、無理強いせず誘い方に工夫をしている。また、入浴剤を毎回使って温泉気分も味わって頂いている。入浴後は「スポーツドリンク」を飲んで頂き、水分補給に繋げている。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不調時は無理せず休んでいただいている。居室の環境(室温・湿度・寝具類)を整えることで、安らげる環境作りを心がけている。眠れない時は、お一人おひとりの状況を総合的に捉えて原因を探り、その方にとっての安らぎを見つける支援をしている。	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の薬性は個人ファイルで常に把握している。協力薬局に居宅療養管理指導を依頼し、配薬・薬の管理等を一緒にを行い、状態変化には常に注視し、飲み込み状態に合わせた薬の形状等医療側に相談するなど連携をとっている。	
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自信や意欲の向上に繋がる事を大切に、お一人おひとりの趣味、得意な事等を把握し、日常生活の中で発揮していただくように支援している。好みのおやつについては冷蔵庫に個別保管しており、食べたい時にお渡ししている。	
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の制限が少しずつ緩和され、ご家族との外食・外食や時に職員との買い物・外食など、毎日という訳にはいかないが、できる限り個々の意向に沿った外出支援に努めている。	外出時は数名が自力、他の利用者は車いす使用する状況である。暑い時期を避け季節の良い時期には施設の前の公園で散歩を楽しんでいる。また、春から秋には諏訪湖湖畔に出て桜のお花見や紅葉見物を楽しんでいる。更には洋服を買いに外出したり、近くのお花屋さんにも出かけている。また、家族と外食や岡谷市の大型ショッピングセンターでウィンドウショッピング等に出かけて楽しんでいる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にての個人保管はトラブル回避の為お断りしているが、金庫にてお預かりしている方はおり、外出の際はご自分のお財布を持ち買い物や支払いをされている。個人で買い物時は職員が同行して支払いをしている。	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には充電が切れないように気を配りし、ご家族からの電話はご本人につないでいる。又、手紙のやり取りができるようにも支援している。	
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花や観葉植物など季節の花々を飾り、四季を感じていただけるようにしている。共用生活空間は居心地よく過ごしていただくようソファを置き、湿度や明るさに配慮し過ごしやすい環境を整え、落ち着いたような音楽を流すなど工夫している。玄関に新しくソファを置き、くつろぎの空間となっている。	施設の共有生活空間は、南側に大きな窓があり明るく、天井も高く開放感がある。利用者が一日を過ごす場としてゆったりとした雰囲気になっている。また、随所に季節の花や観葉植物が置かれ四季を感じられる様に工夫されている。掲示板には毎月発行されている「風薫新聞」が掲載され活動の様子を紹介している。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多種ソファやお部屋等、その時の状況に合わせて過ごしていただき、気の合う方向士と一緒に座ったり、お互いのお部屋を歩き来している。寂しそうな方には声をかける配慮や読み物等を勧め、継続して良い空間作りに取り組んでいる。	
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真など、ご本人・ご家族の意向をふまえて自由に持ち込んでいただき、以前と変わらない暮らしができるように努めている。ご利用者が居心地よく過ごしていただけるように模索・工夫している。	整理整頓が行き届き清潔感漂う居室は、広い押入れ収納が設置され整理しやすい様になっている。持ち込み物は自由で家族と相談の上、イス、タンス、ハンガーラック、テレビ、時計、お位牌等が持ち込まれている。家族の写真や好きなお花、自分が描いた絵画等に囲まれ思い思いの生活を送っている様子が窺える。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線にある危険物を取りのぞいて環境作りを行い、お一人おひとりの状態に応じたベッド配置や家具の置き場を考えている。又、トイレまで分かるような表記など、ご意向に沿った且つ自立につながる支援を工夫し行っている。	